

令和7年度 自己評価書及び学校関係者評価書

令和8年3月30日
札幌市立八軒北小学校

- 1 学校経営の基本理念 「あったかい！」があふれる学校の創造
2 本年度の重点目標 「自分から」であったか＋プラス～八北みんなで学校を楽しむ！～
3 学校経営の5つの視点【アクションプラン】
①子ども理解 ②学ぶ力の育成 ③豊かな心の育成 ④健やかな体の育成 ⑤札幌市の教育と八軒北小らしさ
4 自己評価結果に対する学校関係者評価

視点	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	評価の適切さ	改善策の適切さ
子ども理解	子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる「学習環境づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」に努めていたか。	A	子どもたちが安心して教室で過ごすことができるよう、相手の話を聞く・見るなどコミュニケーションの基本を大切に開く。また、子ども一人一人に丁寧に寄り添い、学習状況や困り感、特性などの理解に努め、一人一人が安心して力を発揮できる環境づくりを行っていく。	A	A
	個別の支援だけでなく、学年・学級集団の中での子どもの様子を的確に捉えて手立てを講じたり支援を行ったりしていたか。	A	学年をはじめ、様々な教職員が日常の様々な場面で、子どもの言葉や行動、表情など小さなサインを捉え、組織的に成長や課題、気付きなどの情報共有に努めることで、集団の中で必要な力を伸ばせるよう指導につなげていく。集団の中でも個に応じた手立てを講じ、幅広い支援を行う。	A	A
学校関係者評価による意見		子どもたちが安心してできる温かい居場所づくりを掲げ、様々な子どもたちに教職員が向き合う雰囲気作りが進められており、子どもたちの気になる行動や言動などに関する情報共有からの組織的な対応ができていく。アンケートでの教職員と児童の結果の違いをより分析し、今後につなげていけるとよい。			
学びづくり	個別最適な学びと、協働的な学びの一体的な充実を図りながら、「課題探究的な学習」を行っていたか。	C	一人一台端末を活用しながら、理解度や課題に応じた学習を進めていく機会の拡充を図るとともに、「個人・グループ・全体」など様々な形態で課題を追究したり、異なる考えを合わせてともに作りだすよさの実感へつなげる。また、多様な学びの在り方について教員間での研修を行い、授業改善に努める。	B	A
	子ども自らが家庭での学習に取り組む習慣をつけるために、家庭と連携しながら、手立てを講じたり支援を行ったりしていたか。	B	学習進度や理解度に合わせて習熟を図るために課題に取り組ませたり、自分学習の取組を交流する中で自分に合った学習を考えたいけるような働きかけを継続し、自ら課題を設定し学習に取り組む習慣付けを行う。個々の取組の様子や学校での指導内容等を懇談会やお便りなどで情報発信し、家庭との連携に努める。	A	A
	学びの質を高め、「学ぶ力」を育成することを目的に、ICTを効果的に活用していたか。	B	一人一台端末を活用し、習熟の場面では個々の理解度に合わせながらより多くの問題に取り組む機会の充実を図る。また、スライドや動画などを用い、考えや調べたことをまとめ、伝えたり見合ったりする活動を通して、自分に合った学習の進め方や学び方を選択したり考えたりする力を育む。	A	A
学校関係者評価による意見		時代やニーズに合わせた学習方法や、子どもの理解度に合わせた対応など、積極的な改善が進んでいる。今後もICT等を活用しながら、子どもたちが勉強が好きになるきっかけづくりを期待する。また、学習習慣と成績の相関などを保護者に説明し、学校と協力して学習習慣を付けられるとよい。			
心づくり	学校行事・児童活動を通して、子どもが他者とかかわりの中で自らの学びを実感し、自信をもって学んでいけるように、指導の積み重ねを行っていたか。	A	どの活動においても、目指す姿に向かって一人一人が目標をしっかりとち、日々の頑張りを認め励まし合う振り返りの機会を大切にすることで、自信や次の活動への意欲につなげる指導を充実させる。また子どもたちが活動の目的や内容、取り組み方の工夫などを考える機会を取り入れていくことで、他者と関わり合いながら、思いや願いをもって主体的に取り組む力を育む。	A	A
	友達や周りの人に気持ちのよい挨拶をしたり、感謝の気持ちを伝えたりできるよう、手立てを講じたり支援を行ったりしていたか。	B	委員会の挨拶運動など、子どもが主体的に挨拶を広げていこうとする取組を今後も推奨し、教職員も率先して全校の児童に明るく気持ちのよい挨拶や感謝の言葉を伝え合う姿を見せることで、挨拶からさわやかな雰囲気生まれることやよりよい人間関係につながることを実感させていく。	A	A
	子どもが生活のきまりやルールを守り、安全に自ら考えて行動できるよう、手立てを講じたり支援を行ったりしていたか。	B	一人一人が自分で正しいことは何かを考え、行動できる力を育てていくことを継続していくとともに、大人の目の有無や校外外を問わず、「いつでも・どこでも・誰とでも」学んだ力を発揮することが自分の成長につながることを促されるような指導を行う。学校での指導や取組について懇談会やお便り、すぐる等も活用して情報発信を行い、家庭との連携を図っていく。	A	A
	読書教育や道徳教育などを通して、言葉から表現力や創造力を豊かにする学びを進めていたか。	B	道徳の学習などを通して、受け手の心情を想像させながら心が温くなる言葉や傷つけてしまう言葉について考える指導を継続して行っていく。朝のよむタイムなど読書に没頭する時間を設けるとともに、本の紹介や読み聞かせなど開放図書館と連携しながら本への興味を広げる活動に取り組む。	A	A
	係や当番活動、児童会活動の場で、子どもが他者に認められ、役に立っているという自己有用感を育んでいけるような手立てを講じたり支援を行ったりしていたか。	A	自分の役割を掲示するなど、見通しと責任をもって自主的に取り組むことで充実感を感じられるような手立てを講じていく。また、振り返りの場を大切にし、互いの頑張りが成長に目を向けて認め合ったり、次の目標をもとに考えたりできるような指導を行う。	A	A
学校関係者評価による意見		一人一人が自信をもって成長できるよう、また、正しい判断や行動ができるよう様々な方法で指導・支援を行っており、学年が上がるにつれて心の成長が感じられる。地域や、地域の行事との連携を図ったり、学校図書館に電子書籍を導入したりするなど、今後もさらなる心の育成を進めてほしい。			
体づくり	子どもが体を動かす楽しさや喜びを味わうことができるよう体育の学習を工夫したり、休み時間の遊びの充実を図ったりするなど、体力向上の取組を進めていたか。	A	週1回の至宝遊びを行うことでグラウンドで体を動かす子どもが増えている。今後も取組を継続しながら、委員会活動なども連携し様々な形で体を動かして遊ぶ機会づくりに努め、重点目標の設定等も取り入れながら体力向上の取組を進める。体育の学習では器械運動週間を継続して設け、それぞれに「できた、できるようになった」という喜びを感じられるような指導を工夫して行う。	A	A
	給食の時間や学級活動などの学習において、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるための手立てを講じたり支援を行ったりしていたか。	B	給食指導では給食だより等を活用し、食材や食文化、マナーへの興味・関心を高める指導を継続する。栄養教諭と連携した食指導を全学年に位置付け、食育の充実を努める。学校と家庭が連携して取り組むことができるよう情報の発信に努める。	A	A
学校関係者評価による意見		体育や休み時間を通して、様々な子どもが体を動かすことの楽しさを感じたり、体力向上への意識を高めたりできるよう取り組んでおり、心身の成長につながっている。食習慣についても、子どもを通した食育の充実を行うことで、家庭との連携を図っていくとよい。			
特色づくり	地域（八軒地区や札幌市など）の環境や施設、人材を生かしたり、体験学習を取り入れたりして、教育活動を推進していたか。	B	学年のカリキュラムに沿って身近な地域の施設や環境を見学したり、出前授業を行ったりするなど、地域と関連した教育活動を進めることができた。今後も学習のねらいや内容などを精査しながら計画的に取り組み、地域への愛着心を育む教育活動を推進していく。	A	A
	豊かな感性を育むために、文化や芸術、自然に親しむことができる活動を取り入れた教育活動を推進していたか。	B	全校での作品展の取組を継続するとともに、芸術鑑賞や出前授業等を活用し文化や芸術に触れる学習活動を行ったり、栽培活動や自然環境を生かした体験活動などを推進したりしていく。	A	A
	さっぽろっ子「学び」のススメを意識して、地域や保護者と連携協力しながら、子どもの「学習・運動・生活」の習慣づくりに取り組んでいたか。	B	これまで同様、札幌市教育委員会のさっぽろっ子「学びのススメ」を意識した取組を学校と家庭が層連携して推進していけるよう、懇談会等で話題に上げ各家庭の取組の様子を交流したり、様々な形で発信したりし、子どもの習慣づくりに尽力する。	A	A
	地域や保護者と連携協力して子どもが安全で安心して学校に通うことができるような環境づくりに取り組んでいたか。	B	より多くの目で子どもの安全を見守る体制づくりを行い、学校と地域、スクールゾーン実行委員会、保護者などが連携協力して行う取組を継続する。また、地域や保護者から気になる情報が寄せられた際は学級指導を行うとともに、すぐる等で情報発信し、家庭との連携に努める。	A	A
	日常的に子どもたちの様子を注視し、いじめに繋がるような事象の早期発見・対応を行い、いじめ防止に努めていたか。	A	子ども同士のトラブルや気になる様子などがあつた際は細かなことも情報共有し、必要に応じて関係機関と連携を行いながら組織として対応していく。また、毎月のいじめ対策会議でも気になる情報を共有し、未然防止と早期発見に努める。	A	A
	信頼される学校づくりを担う一員として、自身の資質・能力の向上に努め、創意工夫を凝らしながら働き方改革に努めていたか。	B	校内外での研修などを通して、教職員としての資質・能力の向上に努めるとともに、ICTの活用や業務の見直しなどを行い組織としての働き方改革を継続していく。	A	A
学校関係者評価による意見		体験学習の充実が子どもたちにとっても楽しみであり、今後も継続してほしい。また、地域との連携を一層進めていくことができるよう、出前授業の積極的な活用や、教職員が地域施設を利用する子どもたちの様子を見たり、施設職員との交流を行ったりする機会があるとよい。今後も学校、保護者、地域がよい関係を築き、よりよい学校づくりを推進していくことを期待する。			